

第2回土岐市国民健康保険駄知診療所のあり方検討委員会 議事概要

1. 日 時 令和5年1月25日（水） 13時30分～15時

2. 場 所 土岐市役所 大会議室2A

3. 委 員 別添委員名簿のとおり

4. 議事等内容

前回検討委員会の議事概要の公表について資料1により事務局から説明した後、議事進行

（1）第1回委員会議事録の確認について

第1回委員会の議事録について各委員に修正点の有無等確認した。

（2）追加資料の説明について

資料2をもとに事務局から地域別患者数の推移、受診患者の年齢構成、通院方法、駄知診療所の施設設備の状況、市内医療機関の地区別立地状況と年齢構成について説明後、委員による意見交換を行った。主な意見・質問は、次のとおり。

- 国保の診療所として、地域包括ケアシステムの拠点としての役割が求められるが、以前からその機能を果たしていない。診療所を継続するなら福祉・健康など医療は当然としてそれ以外の住民ニーズにも応えていく必要がある。
- 土岐市の医療提供体制を考えるに、救急対応のほか専門医による診察・検査・入院等への対応を充実させることが必要であり、現在の駄知診療所の運営は指定管理者への負担になっている。
- 医師の働き方改革への取組など今後医師確保はさらに厳しくなる。地区別医療機関数は、眼科や整形など専門的な診療科を含めてのもの。需要と供給のバランスを含めて駄知町だけでなく市内全体としてどうかということを、考えていく必要がある。
- 駄知町の高齢化率と人口減少の状況から新規患者数は少なく、処方箋の受け入れ体制には問題はない。
- 診療所を存続するには、人件費以外に医療機器の更新等の設備投資に加え、建物自体の更新の必要性もある。さらに、医師確保の観点から人件費の高騰も予測されるところであり、損益の観点からは大変厳しい見込みとなる。患者さんの年齢構成から高齢者への医療提供のあり方を別途検討する必要がある。
- 委員会として必ずしも診療所のあり方を一つにまとめる必要はない。

（3）協議内容の整理について

資料3をもとに前回検討会での論点整理を踏まえ、駄知診療所の今後の運営等について委員の意見を求めた。主な意見は次のとおり。

- 市内医療機関の人口あたりの数からしても駄知町には現状以上の医療機関が存置すべき。経営状況が厳しいとはいえ、住民のためには、公的医療機関としての包括的な使命を果たす必要がある。
- 医療が細分化されている現状からも人口比・地区別の議論はすべきでない。診療巡回バスの実現などによる医療提供の充実を求めるべき。
- 診療所が閉鎖された場合の通院者の不利益も踏まえて、公的医療機関のあるべき姿をしっかりと議論していくことが必要。
- 指定管理者である JA 岐阜厚生連が医師確保に努めるべき。
- 診療所の実患者数をきちんと把握したうえで議論する必要がある。
- 診療・処方薬の受け取りに駄知町のどんぶりバスが非常に役立っている。
- 行政だけで医療提供体制を確保することはできない。限られた医療資源と限られた財源をどう活用していくかという視点でこの問題をとらえるべき。

まとめ

委員からすべての意見が出尽くしたので、今回までの各委員の意見を委員長が総括し、事務局と調整のうえ、意見書の素案を作成し、次回委員会ではその内容について検討することとした。

(4) その他 国民健康保険駄知診療所のあり方検討委員会の傍聴について

この検討委員会を広く市民に公開すべきでないか、傍聴を認めるべきではないか委員会として検討したいとの提案があり、委員の意見を求めたところ議会からも代表の委員がきていただいていることや議論も出尽くしていること、議事概要や資料も公開されていることから次回の検討委員会についても今回と同様、非公開で実施することと決定した。

第2回 土岐市国民健康保険駄知診療所のあり方検討委員会

次 第

日時 令和5年1月25日（水）

午後1時30分から

場所 土岐市役所 大会議室2A

1 開 会

2 議事概要の公表について（資料1）

3 議 事

（1）第1回委員会議事録の確認について

（2）追加資料の説明について（資料2）

（3）協議内容の整理について（資料3）

（4）その他

4 閉 会

【配付資料】

☐ 資料1 第1回土岐市国民健康保険駄知診療所のあり方検討委員会議事概要

☐ 資料2 追加資料（第1回委員会での意見・質問の中で追加指示のあった資料）

☐ 資料3 協議内容の整理について

土岐市国民健康保険駄知診療所のあり方検討委員会 委員名簿

氏 名	職 名 等	出欠
山口 浩一	土岐医師会 副会長	○
川越 孝次	土岐医師会 理事	○
日比野 敦	土岐市薬剤師会	○
土本 典良	土岐市連合自治会 会長	○
小島 三明	土岐市連合自治会 副会長	○
塚本 俊一	土岐市連合自治会 理事	○
水石 玲子	土岐市議会 文教厚生委員長	欠
後藤 正樹	土岐市議会 総務産業建水委員長	○
鷺見 直人	土岐市 副市長	○
田中 邦彦	名古屋税理士会	○

事務局

黒田 隆之	健康福祉部長
高木 緑	保健センター所長
小池 意都子	保健センター次長
水野 龍雄	保健センター副主幹
長江 利和	保健センター保健総務係長
越 和樹	保健センター主査

第1回土岐市国民健康保険駄知診療所のあり方検討委員会 議事概要

1. 日 時 令和4年12月2日（金） 13時30分～15時

2. 場 所 土岐市役所 大会議室2A

3. 委 員 別添委員名簿のとおり

4. 議事等内容

市長あいさつ、委員自己紹介、事務局自己紹介に続き、本検討委員会の設置目的について別添資料①により事務局から説明した後、議事進行

（1）委員長及び職務代理者の選出について

委員長に土本典良委員を選出

土本委員長が職務代理者として、小島三明委員を指名

（2）土岐市国民健康保険駄知診療所の現況について

別添資料②をもとに事務局から駄知診療所の沿革、患者数の推移、診療事業収支について説明後、委員による意見交換を行った。主な意見、質問は次のとおり。

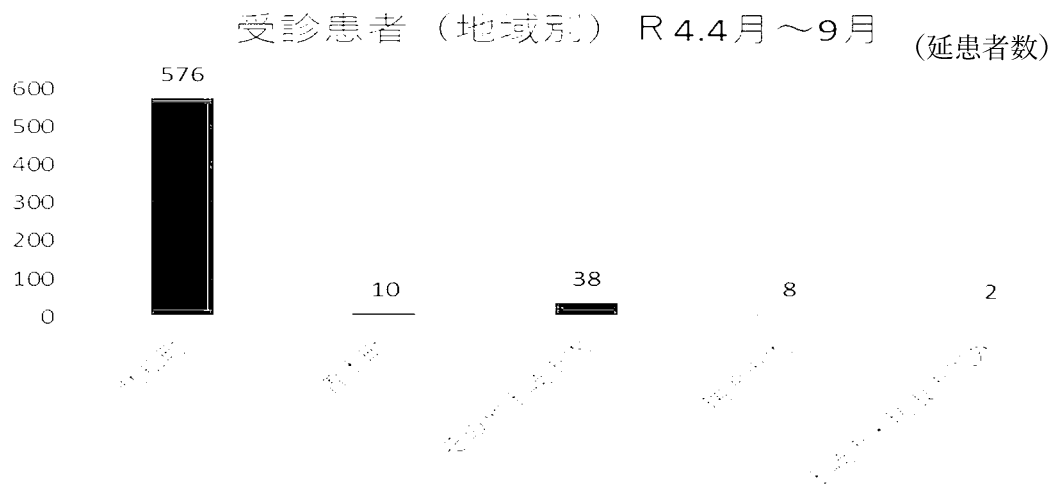
- 市議会に請願をし、請願項目のうち一つである医療提供サービスの充実を求めることについては採択されたが、その後、現状は改善されていない。診療日数が減れば患者数が減少するのは当然である。指定管理者の責任において、常勤医師を確保し、継続して診療所を残してほしいというのが地元市民の意見である。
- 地域別患者数について年齢構成等の資料も必要ではないか。
- 現在及び今後の経営状況から、市全体として駄知診療所の運営をどうすべきかを冷静に考えていく必要がある。
- 十分な検査対応ができないこと、週3日午前診療となっている現在の状況で、医療サービスを充実させることは難しいのではないかと。市内医療機関の偏在ということもあり、市全体のバランスを考える必要はある。
- 医療機関がない濃南地区の住民は、他地区及び一部市外への医療機関を受診している。
- 駄知診療所の医療機器の保有状況も踏まえて、今後のあり方を考える必要がある。
- 医療資源の人的・物的集約は必須であるが、新病院の建設地へのアクセスも含めて、交通手段を確保する必要がある。
- 駄知町では、自治会の循環バスを走らせ、診療所にもバス停を設けている。
- 従来から、二次医療については行政が直接その体制を担い、一次医療については民間の医療機関が担うという大きな方向性がある。

次回について

本日の現状説明を踏まえたうえで、各委員のそれぞれの視点から駄知診療所の今後について協議する。意見・質問の中で指摘のあった資料については、次回検討委員会までに事務局で用意する。

追加資料① 地域別患者数の推移について【追加：年齢構成】

地域別患者数は、全体の 9 割が駄知町在住の患者となっています。受診者の年齢構成は 61 歳以上の方が約 77.4%で、そのうち、駄知町の患者が 92.3%を占めています。



受診患者(地域別)【年齢別】4月-9月							
年齢	駄知町	曾木町	その他土岐市	瑞浪市	土岐・瑞浪以外	合計	(割合)
0-10						0人	0.0%
11-20	1					1人	0.2%
21-30	16		1			17人	2.7%
31-40	24			1	1	26人	4.1%
41-50	37		6			43人	6.8%
51-60	45	1	6	4		56人	8.8%
61-70	146	4	14	2	1	167人	26.3%
71-80	208	5	11	1		225人	35.5%
81-90	97					97人	15.3%
91-100	2					2人	0.3%
合計	576	10	38	8	2	634人	

追加資料② 通院方法について（駄知どんぶりバス 乗者数）

バス停名	令和 2 年度	令和 3 年度
駄知診療所	9 6 名	9 4 名

（出典：塚本委員提出資料から抜粋）

追加資料③ 駄知診療所の施設設備の状況について

レントゲン撮影装置など、医療機器については、購入から十数年経過しています。また、施設自体も劣化が進み、今年度は雨漏りが発生しており、修繕対応しましたが、その屋根防水工事の補償期間も今年度で終了となっています。

資 産 ・ 減 価 償 却 費 明 細		
取得年月日	摘 要	耐用償却年
	「医 療 器 械」	
H3.10.23	オージオメーター	4
H8.8.8	自動現像機	6
H24.5.11	自動血球数CRP測定装置	6
H19.6.30	心電図自動解析装置	6
H19.8.21	x線一般撮影装置	6
H22.6.11	小型電極式グルコース分析装置アントセンスⅢ	6
	計	
	「備 品」	
S53.3.20	錠剤台	15
S53.3.20	錠剤台	15
H11.6.30	診察室エアコン	6
H12.10.31	事務室エアコン	6
H13.8.30	所長室エアコン	6
H15.9.19	処置室・検査室エアコン	6
H18.1.31	廊下・薬局エアコン	5
H25.6.25	事務用パソコン	5
R02.3.21	オンライン資格確認システム	5
	計	
	器械・備品合計	
	「その他有形固定資産」	
S53.3.20	給排水衛生設備	15
S53.3.20	電気設備	15
H16.12.1	トイレ改修・公共下水道切替工事	15
H19.7.21	屋根防水工事	15
	計	

追加資料④ 地区別 年齢階層別人口と医療機関数

地区名	人口 (R4.3.31時点)	年少人口 0～14歳	生産年齢人口 15～64歳	老年人口 65歳以上	医療機関数 (R4.12.1時点)
土岐津町	9,970人	1,458人	5,698人	2,814人	9
		(15%)	(57%)	(28%)	
下石町	6,530人	810人	3,703人	2,017人	1
		(12%)	(57%)	(31%)	
妻木町	5,888人	592人	3,244人	2,052人	3
		(10%)	(55%)	(35%)	
鶴里町	1,340人	118人	673人	549人	0
		(9%)	(50%)	(41%)	
曾木町	843人	62人	398人	383人	0
		(7%)	(47%)	(45%)	
駄知町	7,037人	598人	3,662人	2,777人	2
		(8%)	(52%)	(39%)	
肥田町	6,151人	715人	3,472人	1,964人	5
		(12%)	(56%)	(32%)	
泉町	18,416人	2,061人	10,654人	5,701人	14
		(11%)	(58%)	(31%)	
	56,175人	6,414人	31,504人	18,257人	34

(3) 協議内容の整理について

1. 統計による整理

(1) 延べ患者数の推移

定期受診の患者について処方期間の見直しを行うほか、必要とする検査等が駄知診療所では行えない患者については他院に紹介するなどの対応を行うなどにより、延べ患者数は月 100 人程度

(2) 地域別患者数の推移

駄知町在住の定期受診している患者がほとんどを占めており、発熱外来を実施しておらず、新規患者はほぼいない状況

(3) 診療日の一日あたり患者数

診療日一日あたり患者数は、令和 4 年 1 月以降は 1 日あたり 8 人前後

(4) 診療所事業収支

令和 4 年度の 9 月までの上半期の事業収支は、2,053 千円の純損失

2. 意見による整理

(意見①)

診療所の存続、診療日と診療時間、サービスの充実を今までの通りにして欲しい

(意見②)

駄知町の患者が圧倒的に多く、市全体として考えたときに、駄知町の人のためにやらなければならないかどうかということも、冷静に考えていくべき

(意見③)

処方の見直しや、検査のために他医療機関へ紹介し、また、発熱外来の対応ができず新規患者ない現状で、週３日間の午前中、患者は実際８人程度であり、ほとんどが駄知町からの患者、という医療ニーズであると理解している

(意見④)

鶴里、曾木は医者がいらないが、何とかやっているというような状況。
レントゲンとか機器が当然必要になってくるが陳腐化しており、費用が相当かかるのではないかと。

(意見⑤)

仮にここがなくなった場合に、その方々がどうされるか。新病院の建設計画が進んでいるが、医療資源の人的、物的な集約も、これからもう避けては通れない。一方で、地域の医療の質を低下させてはならない。

(意見⑥)

従来から、二次医療については行政が直接その体制を担い、一次医療については、なるべく民間の医療機関が担う方向性がある。

医師確保が難しい中で土岐市全体の医療を確保する、特に二次医療については、土岐市と瑞浪市で責任を持ってやっていく。その一方で、かかりつけの患者さんについては、今後、土岐市行政がどういう形で一次診療と関わっていくのか、この点が駄知診療所のあり方を考える重要なポイントと考える。